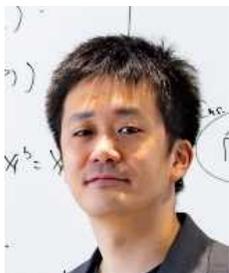


気象制御のための制御容易性・被害低減効果の定量化

Project manager

小槻峻司

千葉大学 国際高等研究基幹/
環境リモートセンシング研究センター
教授



代表機関

千葉大学

研究開発機関

千葉大学、順天堂大学、東京大学、京都大学、大阪大学、弘前大学、SOMPOリスクマネジメント株式会社

プロジェクト概要

気象制御を実現するためには、意思決定のボトルネックである「制御効果最大化」の議論を可能とする必要があります。その議論に不可欠な「気象制御にかかるコスト」と「気象制御による被害低減効果」の比較検討を行うため、本プロジェクトでは下記の技術開発を行います。

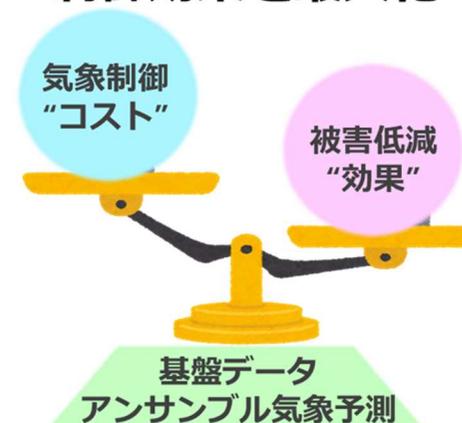
- 気象制御容易性の定量化**
過去の災害事例に対し「少しの操作で災害を回避できる、災害/非災害の分水嶺が存在するか？」を機械学習により明らかにします。
- 気象制御による被害低減効果の定量化**
制御・非制御シナリオの被害金額・影響人口を日本全域で算出することを目指します。

終了時(2024年)のマイルストーン

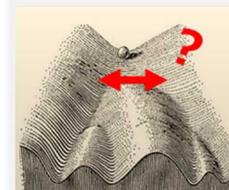
気象場の操作容易性を定量化し、制御の実行可能性を判断する指標を確立します。

プロジェクト内の研究開発テーマ構成

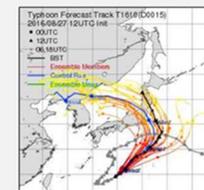
制御効果を最大化



数理研究班
気象制御容易性
の定量化



データ同化研究班
大アンサンブル
気象予測情報創出



経済被害研究班
日本全域の
被害低減効果推定



小槻峻司 (千葉大) 徳田慶太 (順天堂大) 小蔵正輝 (大阪大) 小林亮太 (東京大) 薄良彦 (京都大) 井元佑介 (京都大) 山田進二 (SOMPO) 岡崎淳史 (弘前大)